

第 I 章 八重瀬町における景観の特性と課題

1. 八重瀬町の景観特性（景観要素）

（1）景観特性の分類

本町の景観資源を、地形的特徴や眺望等を含めた“大きなスケールから捉える景観”、山並みや海岸・海浜、河川、農地等の“自然的景観”、集落や市街地及びそれらに分布する歴史的資源等を“集落・市街地景観”、本町の骨格となる道路及び河川を“軸としての景観”の4つに分類します。

■景観要素分類体系

景観要素の大分類	景観要素の小分類	景観要素の内容
大きなスケールから捉える景観	1) 地形的特徴	斜面地や、断崖状の海崖地形等
	2) 眺望景観	八重瀬岳、具志頭城址等からの眺望
自然的景観	1) 山並み・緑の景観	本町中央に位置する八重瀬岳や南側の丘陵地等の景観
	2) 海岸・海浜の景観	ぐしちゃん浜、玻名城の郷ビーチ、ギーザバンタ等、良好な自然海岸・海浜景観
	3) 農地景観	サトウキビ畑や野菜畑等の農地景観
	4) 地下の景観	洞窟・鍾乳洞・壕等の地下の景観
集落・市街地景観	1) 集落景観	富盛、世名城、安里等の集落景観
	2) 市街地景観	本町北側に位置する伊覇・屋宜原土地区画整理区域及び国道 507 号を中心とした市街地景観
	3) 歴史・文化的景観	各地域に点在する指定文化財やグスク、拝所等の歴史・文化景観
	4) 伝統芸能や祭りの景観	各地域に残る伝統芸能や祭祀、桜まつり等の祭りの景観
	5) 漁港景観	港川漁港の港景観
軸としての景観	1) 道路景観軸	国道・県道等の道路景観
	2) 河川景観軸	雄樋川、報得川、饒波川、白水川、長堂川等の河川景観

(2) 景観要素分類別景観の特性

大きなスケールから捉える景観

1) 地形的特徴

本町の景観を大きなスケールで捉えると以下の特徴があります。

- ・本町の中央に位置する八重瀬岳（標高 163m）を最高地とする丘陵台地を中心に、南側はゆるやかな斜面を形成しています。
- ・南端部は太平洋に面した海崖地形により、標高 100m 前後の断崖状の石灰岩丘陵の帯（バンタ）と海浜によって海岸線が形成されています。
- ・北側は急斜面をなしたあと、比較的平地が広がっています。
- ・本町の土地利用は、町土の約半分を農用地が占めており、低地部では、碁盤目状に整備された土地改良区の農用地が町域のあちこちに広がっています。
- ・土壌は、丘陵が発達する南部は石灰岩が風化した島尻マーヅ土壌に覆われ、北部は泥岩が風化したジャーガル土壌が覆っています。



【起伏に富んだ独特の地形が織り成すダイナミックな眺望】

2) 眺望景観

①八重瀬岳からの眺望

本町は、八重瀬岳や南側の丘陵地をはじめとする丘陵台地の地形で形成されており、低地部分の集落や道路等からは斜面緑地の稜線を望むことができます。

八重瀬岳の中腹には八重瀬公園が整備されており、高台からは、遠くは首里城やケラマ諸島、東シナ海を見渡すこともできる良好な眺望点であります。



【八重瀬岳からの眺望】

②小城馬場広場展望台からの眺望

本町丘陵部の高台に位置し、展望台からは集落や碁盤目状の農地等を一望でき、また夜景スポットとしても魅力的な表情をみせてくれるなど、身近な眺望点として住民に親しまれています。



【小城馬場広場展望台からの眺望】

③具志頭城址からの眺望

本町南側の丘陵地に位置する具志頭城址からは、雄大に広がる太平洋、石灰岩の絶壁地形であるギーザバンタやビーチの白い砂浜、海岸に立つ巨岩、海域に広がるリーフ等、ダイナミックな海岸や海原を望むことができます。また港川漁港や隣接する南城市の奥武島を望むことができます。



【具志頭城址からの眺望】

④その他主要な眺望点



【上田原の眺望】



【東風平之殿の眺望】



【西部プラザ公園の眺望】



【新城グスクの眺望】



【金満御嶽（松尾の嶽）の眺望】



【具志頭庁舎からの眺望】



【雄樋川大橋の眺望】



【多々名グスクの眺望】



【ギーザバンタの眺望】



【サザンリンクスからの眺望】

自然的景観

1) 山並み（稜線）・緑の景観

①八重瀬岳

東風平地域と具志頭地域の間にまたがる八重瀬岳（標高 163m）は、まちのシンボリックな存在であり、八重瀬グスクをはじめとする遺跡・史跡、自然、桜並木等の豊かな地域資源を有しています。本町を代表する自然景観であり、また、町名の由来となっているなど、住民の身近な存在として昔から親しまれています。



【八重瀬岳の山並み】

②本町南側の丘陵地

本町南側の太平洋に面する丘陵地で、メーヌヤマと呼ばれる字波名城から字具志頭の南側に連なる石灰岩段丘が、海岸線に沿って稜線をなしています。この一帯には、具志頭城址や多々名グスク等の文化財も多く散在しています。

多々名グスク周辺の原生林に囲まれた自然遊歩道を散策し、海岸へ抜け出た時、目の当たりにする海への眺望と爽快さは格別であります。



【具志頭城址周辺の丘陵地】



【多々名グスクの山並み】

2) 海岸・海浜の景観

①ぐしちゃん浜

沖縄戦跡国立公園の具志頭園地（海浜地区）に指定されており、きのこの形状をした特有の巨岩（ブリ）が点在し、独特な海岸景観を形成しています。その特徴を活かして、ボルダリング（岩登り）やパラグライダーが行なわれています。



【ぐしちゃん浜】



【ボルダリング】

②玻名城の郷ビーチ

サザンリンクスリゾートに隣接するビーチで、アヒラーブリと呼ばれるアヒルに似た巨岩があります。干潮時には、イノー（礁池）が露出し、岩場に住むウニや熱帯魚、珊瑚等を歩いて観賞することができます。

また世界的にも貴重な海藻類「カサノリ」が群生することでも注目されています。



【玻名城の郷ビーチ】

③ギーザバンタ

具志頭城址から糸満市の摩文仁の丘に連なる約 4km の切り立った石灰岩の険しい絶壁が形成されており、太平洋を一望できる良好な眺望点であります。

崖の下はリーフが発達しており、大小のイノー（礁池）が見られ、干潮時には熱帯魚や珊瑚等の海の生き物を観賞することができます。

崖の入口には国営慶座地下ダムの放水路があり、そこから流れ出た水が滝になって太平洋へ白いしぶきを上げて落ちる光景はダイナミックであります。



【ギーザバンタ】



【ギーザバンタの滝】

3) 農地景観

①サトウキビ畑

肥沃な大地に恵まれた本町は、昔から農業が盛んな地域であり、特に、町内のいたるところで見られるサトウキビ畑は、本町の耕種部門での作付面積が最も大きい農作物であります。サトウキビ畑と森（ムイ）や御嶽の森等が形成する農地景観は、「八重瀬町らしい」景観と言えます。

1～3月にかけては、ウージ倒し（キビ刈り）の様子を町内のあちこちで見かけ、この時期の風物詩となっています。

②野菜畑等

本町では、その他にも、ピーマン、紅芋、オクラ、マンゴー、ドラゴンフルーツ、パッションフルーツ等、彩り鮮やかな農作物が数多く生産されており、町内の小学校等では収穫体験も行われています。本町ではこれらの色とりどりの農作物を「カラフルベジタブル」と称し、多様なプロジェクトを展開しています。

基盤目状の農用地では、多種多様な野菜や果実が露地やビニールハウスで栽培されており、豊かな田園風景を形成しています。



【サトウキビ畑】



【基盤目状の農用地】

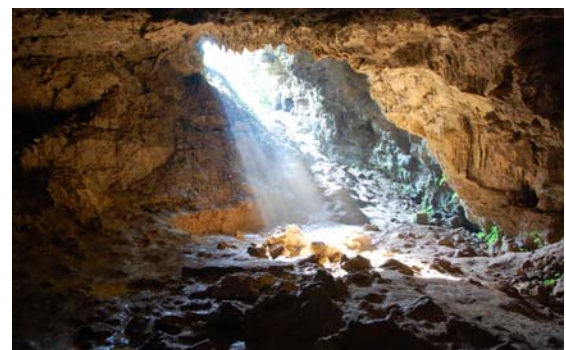


【カラフルベジタブルのイベント公告】

4) 地下の景観

①洞窟・鍾乳洞・壕

本町には洞窟や鍾乳洞、壕等の地下景観が存在し、本町の特徴的な自然景観のひとつであります。近年、発掘調査等が行われ、自然が創りだした珍しい形状の地形や、コウモリ等の野生動物の生息地、さらには沖縄戦時の激戦地を物語る痕跡等が確認されており、その価値が見直されています。



【地下の景観】

集落・市街地景観

1) 集落景観

字東風平、字具志頭等の集落においては、北側に森（ムイ）を配し、碁盤目状に形成された道路や、馬場跡、南入りの住宅配置、フクギ屋敷林や栗石の石垣、瓦屋根住宅が残っており、伝統的な集落景観を見ることができます。

また、集落には世名城のガジュマルや当銘のガジュマルといった巨木・古木が残っており、地域のシンボリックな存在となっています。



【石垣とフクギ屋敷林に囲まれた
赤瓦住宅（字東風平）】



【上江門家（字安里）】



【敷地内の屋敷林が集落に潤いを与える（字富盛）】



【栗石の石垣（字具志頭）】



【集落のガジュマル(字世名城)】



【集落のガジュマル（字当銘）】

2) 市街地景観

本町の北部地域には、那覇広域都市計画区域の伊覇地区地区計画及び屋宜原地区地区計画があり、国道507号の拡幅や伊覇・屋宜原地区の土地区画整理事業等、基幹道路や住宅地・商業地の整備が行われ、また土地区画整理された住宅地では、近代的な住宅が建ち始めるなど、新たな中心市街地として都市的な開発が進められています。

国道507号には商業施設が並び、活気を呈していますが、沿道には看板等の屋外広告物が乱雑に存在し、また、多くの電柱が立ち並び、電線が張り巡らされるなど、良好なまちなみ景観の阻害要因となりえることから、今後、改善が必要と考えます。



【都市化が進む伊覇・屋宜原地区】



【近代的な戸建て住宅や共同住宅が建ち並ぶ土地区画整理区域】

3) 歴史・文化的景観

①グスク

現在、本町にあるグスク時代の遺跡は43遺跡で、そのほとんどが琉球石灰岩丘陵で確認されています。遺跡は主に14～15世紀頃のもものが中心で、代表的なものとしては、「八重瀬グスク」、「多々名グスク」、「具志頭グスク」、「勢理グスク」、「新城グスク」、「テミグラグスク」等があり、グスクが存在する小高い丘が各地域の緑の森（ムイ）としてランドマークやシンボルとなっています。

中でも、八重瀬グスクは、汪英紫^{おうえいし}によって築城され「しものよのぬし」と称して隆盛を極めたと伝えられています。また、多々名グスクについては、13種ほどのおもろが残っており、中でも『おもろさうし』第19は「ちゑねん、さしき、はなくすくおもろ御さうし」と題し多々名グスクや城主の「ちゃら（按司の異称）」を讃えるおもろが見られ、その頃の城主は具志頭周辺を領するほどの勢力があったと伝えられています。



【勢理グスク】



【新城グスク】

②各集落に点在する拝所

各集落内やその周辺においては、殿、御嶽、井戸等の拝所が多く存在しており、それらの場所では古くから地域の年中行事が行われ、地域の人々の精神的な拠り所となり、信仰文化の中心となっています。

これらは、昔の集落の形態や人々の生活の様子等の歴史を感じさせる重要な景観要素ともなっています。



【金満御嶽】



【屋富祖井】

③村獅子（シーサー）

富盛の石彫大獅子に代表されるように、本町には多くの村獅子が残っています。馬場跡や公民館等の近く、集落の外れの小丘等に建っており、火除け（魔除け）の意味合いが強い。その中には、青年繁栄の守り神として特異な獅子である小城のニーサー石もあります。

各地域に残り地域を見守り続けている獅子（シーサー）は、本町の独特な景観要素としてその保全が望まれます。



【富盛の石彫大獅子】



【小城のニーサー石】



【東風平の子ヌ方の獅子】



【東風平の卯ヌ方の獅子】



【東風平の酉ヌ方の獅子】



【東風平の午ヌ方の獅子】



【志多伯の酉ヌ端の石獅子】



【志多伯の午ヌ端の石獅子】



【安里の石獅子】



【新城の石獅子】

4) 伝統芸能や祭りの景観

本町は、「エイサー」、「獅子舞」、「棒術」、「臼太鼓」、「ハーレー」等の伝統芸能が盛んな地域であり、旧盆や旧暦 8 月 15 日には、各地域で多彩な民俗芸能が催されます。豊年満作や無病息災を祈願するものが多く、今日まで受け継がれています。

各行事で集まる多くの人々のにぎわいや、三線と太鼓の音色、色鮮やかな衣装等が織り成す文化的景観は、一年を通して限られた時間ではありますが、保存すべき重要な景観であります。

また、毎年開催される県内最大級のイベント「那覇マラソン」では、国道 507 号及び国道 331 号がコースとして利用され、多くのジョガーや沿道に集まる人々の声援が、にぎわいを創出しています。その他、八重瀬岳の桜まつりや海岸・海浜を活かしたイベントなど、自然を活かした催しものが開かれています。



【安里のエイサー】



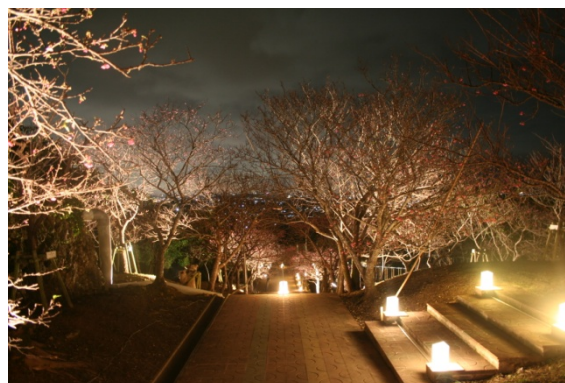
【東風平の棒術】



【那覇マラソン】



【富盛の女行列^{オンセン}】



【やえせ桜まつりのライトアップ】

5) 漁港景観

本町の漁業の中枢をなす町内唯一の港川漁港は、本島南部では糸満について歴史のある港であります。

漁業組合が中心となってパヤオやソデイカ漁を中心に、小型船による漁船漁業が営まれており、新鮮な魚介類が水揚げされ、競り売りではうみんちゅ達の活気ある声が飛び交っています。

漁港内に無造作に積まれた石灰岩の石ころの山が、伝統漁法のイシマチャー*とあいまって独特の漁港景観を形成しています。

また、毎年地域の行事として港川ハーレーが行なわれ、多くの人で賑わっています。



【港川漁港】



【港川ハーレー】



【唐の船御嶽】



【イシマチャーで使用される石】

*イシマチャーとは、底物（マチ類等）釣り漁法で、石まき式漁法ともいう。この漁法の大きな特徴は、従来の固定された錘のかわりに細長い1~2kgの石を使用して、使い捨てたことである。釣針を海底まで下ろせばこの石錘が外れるような結索法に独自の工夫が凝らされている。

軸としての景観

1) 道路景観軸

①国道 507 号

主要幹線道路である国道 507 号は、本町の南北を縦貫する道路の主軸となっています。北部側では 2 車線が整備され、中央分離帯にはアカタコノキやヤシ等の南国風の街路樹が配置されています。伊覇・屋宜原地区では商業施設が建ち並び、市街地としての沿道景観を形成していますが、電柱・電線や屋外広告物等も目立っています。一方、字富盛付近から南下すると、サトウキビ畑に囲まれた直線道路が続き、都市計画区域外となっている具志頭地域はのどかな田園風景を形成しています。



【国道 507 号 東風平地域】



【国道 507 号 具志頭地域】

②国道 331 号

主要幹線道路である国道 331 号は、本町の南側に位置し東西軸となっています。沿道にはクロキ等の街路樹が植樹されており、特に、歴史民俗資料館前には、具志頭間切番所が設置した時に植栽されたと言われるフクギ並木が特徴ある道路景観を形成しています。



【国道 331 号 フクギ並木】



【国道 331 号 字波名城】

③県道 52 号線

県道 52 号線は、字新城から字富盛、字世名城、字高良を抜けて糸満市へ向かう東西軸の幹線道路であります。

特に、八重瀬岳から見下ろす字世名城付近では、沿道の両側がソウシジュ並木となっており、背後の農地や森（ムイ）とあいまって良好な道路景観を形成しています。



【県道 52 号線】

2) 河川景観軸

①雄樋川

雄樋川は、南城市大里の大城ダムを起点に本町東側の南城市との境界線流れ、太平洋に面する港川漁港へと繋がっており、海及び港と一体的な河川空間を形成しています。



【雄樋川】

②報得川

南城市大里を起点に宇東風平から糸満市へと流れる報得川は、大雨による氾濫が発生することもあり、過去には水難事故も生じたため、一部に転落防止柵が設置されています。また、報得川は平成17年度に全国の二級河川の水質ワースト1位になったこともあり、糸満市及び南城市とともに清流化に取り組んでいます。報得川沿いには土地改良区の農地が広がっていますが、コンクリート三面張りの人工的な河川景観となっています。



【報得川】

③長堂川、饒波川

国場川に繋がる支流である長堂川及び饒波川は、4市3町で構成する国場川水系環境保全推進協議会で環境保全に取り組んでいます。

河川の両岸はコンクリート護岸が連続し画一的で人工的な河川景観となっています。



【饒波川】

④白水川

白水川は、字具志頭を蛇行するように流れており、白水川にかかる天然岩橋は自然橋と呼ばれ、名勝として知られています。白水川は自然橋とともに、旧具志頭村の村歌に詠まれ地域に親しまれていたが、現在は間知ブロック積の護岸とコンクリート河床により整備され人工的な河川景観を形成しています。



【白水川】

2. 八重瀬町における課題

(1) 自然的景観の課題

① 山並み（稜線）、緑の景観の保全

本町は、八重瀬岳や南側の丘陵地をはじめとする丘陵台地の緑の景観など、緑豊かな自然景観を有しています。

今後、良好な自然景観の保全に向け、地域の特性に応じた景観形成が求められます。本町のシンボルである八重瀬岳及びその周辺地域においては、良好な自然環境を保全しつつ、地域住民にとって住みよい環境づくりが求められます。開発が進む伊覇・屋宜原土地区画整理区域においては、街路樹や住宅地の緑等を創出し、潤いある景観づくりを進める必要があります。また、都市計画区域外である具志頭地域においては、大規模な開発や建物の規制等が設けられていないことから、無秩序な開発等の規制を視野に入れた自然の保全が望まれます。



【多々名グスクの山並み】

② 海岸・海浜景観の保全・修景

海浜やビーチにおいて、漂着ゴミ、護岸の落書きや不法投棄等は住民の憩い空間を阻害しており、乱れた景観をなしていることから、海辺における快適で美しい景観づくりとしての整備・活用が望まれます。



【具志頭地域の自然海岸】



【サザンリンクスリゾートに隣接する海岸・海浜】

③農地景観の保全・活用

本町に広がる美しい農地景観を保全し、さらに観光農園、体験農業を取り入れる等、農業と観光産業が連動した景観資源の活用が望まれます。



【世名城の農地】



【サトウキビ収穫の様子】

④良好な眺望点の整備・活用

本町にある多くの眺望点を活用するため、アクセス機能の向上や、トイレ・休憩所の設置等、眺望点及びその周辺の利便性向上に資する整備が望まれます。



【小城馬場広場展望台からの眺望】

⑤地下の整備・活用

本町には様々な洞窟や鍾乳洞、壕等ありますが、未だ発見されていない地下景観等が存在する可能性があります。今後、地下資源の調査等を検討し、これらを活かした社会教育や平和学習、さらには観光の場としての活用が望まれます。



【洞窟調査の様子】

(2) 集落、市街地景観の課題

① 良好な集落景観の保全・修景

本町は、伝統的な集落形態をなす集落、瓦屋根やヒンプン、フクギ屋敷林、石垣等の昔ながらの家々が残る集落、漁港と一体的に形成された漁村集落等、多様な特性を持つ集落が多く存在する地域であります。各集落が持つ景観特性を考慮した集落景観づくりが求められ、その取り組みの1つとして、景観形成を重点的に取り組む地区の指定及び整備が望まれます。また、高さや規模の大きなアパート等が建つことで、良好な集落景観が壊されないよう、今後、集落内における建築物等のルール作りが求められます。



【富盛集落】



【背景の八重瀬岳の山並みと調和した赤瓦住宅】

② 良好な市街地景観の創出

現在、伊覇・屋宜原地区の市街地を中心に都市化が進んでいますが、土地区画整理区域内や主要幹線道路沿道における建物の高さや意匠・色彩の統一感を創出し、また植栽等による緑化や、無電柱化などによる良好なまちなみの形成が望まれます。

また公共施設・サイン等については、都市的なデザインや伝統的なデザインを取り入れ、さらに八重瀬町らしい意匠にするなど、今後、工夫が必要です。



【土地区画整理区域内の住宅地】

③多様な歴史・文化的資源の保全・活用

本町には多様な歴史・文化的資源がありますが、その由来や存在意義等を伝承できる説明板・案内板等の設置が少ない状況であります。例えば富盛の石彫大獅子が八重瀬岳を向いている理由等、それぞれの歴史・文化資源が持つ背景や意味を理解し、その特徴を踏まえた上での保全・活用が望まれます。



【富盛の石彫大獅子】



【上江門家（字安里）】

④地域の伝統芸能や祭祀の保全・継承

本町には数多くの伝統芸能や祭祀が今でも残っており、これらは地域の歴史・文化を語る上で重要な行事であります。しかし、近年、少子化や各地域の青年会参加者が減少傾向にあることから、継承者の育成や地域コミュニティの強化を図るなど、地域の伝統芸能や祭祀の保全・継承が望まれます。



【当銘・小城の共有籠】



【安里の棒術】

⑤港景観の保全

本町唯一の港であり、これまでに町民の生活を支え漁業活動の中枢をなしてきた港川漁港は、本島南部では糸満に次いで歴史のある港であります。

うみんちゅ達が創り出す活気あふれた景観や、伝統漁法のイシマチャー等、港の歴史が創り出す港景観の保全が望まれます。



【港川漁港】



(3) 軸としての景観の課題

① 道路景観軸の保全・修景

主要幹線道路等においては、多くの電柱が立ち並び、電線が張り巡らされ、沿道商業施設による乱雑した屋外広告物等が目立っています。今後、電線類の地中化や屋外広告物の規制等、整然とした沿道景観の創出に向けた整備が望まれます。

また、沿道の緑陰創出、舗装やガードレールの質感・色彩等に配慮した快適・安全でゆとりある歩道・自転車道の整備、赤瓦を使用したバス停留所のリニューアル等、良好な沿道景観づくりが望まれます。

街路樹については、樹木の統一感を出し、本町の特色を演出した道路景観の形成と、地域住民による道路植栽の維持・管理等、住民協働の景観づくりが望まれます。



【国道 507 号】



【シーサーがある富盛第二バス停】

② 河川景観軸の保全・修景

本町には、雄樋川を始め、多くの河川が流れており、潤いのある景観を形成していますが、生活排水や農産排水等による水質汚濁や、大雨による氾濫の発生等の課題があります。今後、下水道整備や畜産排水対策など、水質浄化等による環境美化が必要と考えられます。また、三面張りの人工的な河川景観を、安全性に考慮した親水空間や自然と共生する多自然型河川としての再整備によって、住民にとって親しめる河川景観づくりが望まれます。



【白水川】



【雄樋川】



【饒波川】